

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領(1998年9月)に準拠して作成

納豆菌配合消化酵素剤

ドライアーゼ®配合細粒

Dreibase® Combination Fine Granules

剤形	細粒
規格・含量	1g中 納豆菌末 60mg アミロリクィファーゼX 120mg サンプローゼF 30mg 含有
一般名	納豆菌末 Bacillus natto powder アミロリクィファーゼX Amylo-liquifase X サンプローゼF Samprose F
製造承認年月日	2009年6月26日
薬価基準収載日	2009年9月25日
発売年月日	2003年12月1日
製造販売元	マイラン製薬株式会社
担当者の連絡先 電話番号・FAX番号	

本IFは2009年9月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR と略す）等にインタビューし、当該医薬品の評価を行なうに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和 63 年日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）として位置付けを明確化し、その記載様式を策定した。そして、平成 10 年日病薬学術第 3 小委員会によって新たな位置付けと記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。

3. IF の様式・作成・発行

規格は A4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IF は日病薬が策定した「IF 記載要領」に従って記載するが、本 IF 記載要領は、平成 11 年 1 月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF 記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価（臨床試験実施による）がなされた時点ならびに適応症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合には IF が改訂・発行される。

4. IF の利用にあたって

IF 策定の原点を踏まえ、MR へのインタビュー、自己調査のデータを加えて IF の内容を充実させ、IF の利用性を高めておく必要がある。

MR へのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床試験等の項目が挙げられる。また、臨時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update(医薬品安全対策情報)等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段に IF 作成の基になった添付文書の作成又は改訂年月日を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

《目次》

I. 概要に関する項目	-----	1
II. 名称に関する項目	-----	2
III. 有効成分に関する項目	-----	3~5
IV. 製剤に関する項目	-----	6~8
V. 治療に関する項目	-----	9
VI. 薬効薬理に関する項目	-----	10
VII. 薬物動態に関する項目	-----	11
VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	---	12~13
IX. 非臨床試験に関する項目	-----	14
X. 取扱い上の注意等に関する項目	-----	15
X I. 文献	-----	16
X II. 参考資料	-----	17
X III. 備考	-----	17

I. [概要に関する項目]

1. 開発の経緯

昭和初期から、納豆菌と麹菌を別々に培養し、その培地ごと混合した製剤をドライアーゼ、ドライアーゼ末として製造・販売し、急・慢性胃腸カタル、宿酔、胃下垂、便秘、大腸カタル、消化不良などに用いられた。1975年(昭和50年)に、活性型納豆菌末に消化酵素剤であるアミロリクイファーゼXとサンプローゼFを添加した配合剤として、新ドライアーゼを開発・販売した。2009年9月に医療事故防止のための販売名変更を行った。

2. 製品の特徴及び 有用性

納豆菌の有用性としては、①消化酵素の産生¹⁻³⁾、②ビタミンの産生⁴⁾、③抗菌作用⁵⁻⁷⁾、④腸内細菌叢の正常化^{8,9)}が挙げられる。

ドライアーゼ配合細粒に配合されている納豆菌末には芽胞が多く含まれており、小腸上部から下部にかけて発芽・増殖し各種消化酵素を分泌する。胃内では納豆菌以外の消化酵素が作用し、小腸内では、中性域に至適 pH を持つ消化酵素と発芽・増殖した納豆菌が分泌する種々の酵素により更に消化が進む。さらに、納豆菌の持つ抗菌作用及び腸内細菌叢の正常化作用が発揮される。

Ⅱ. [名称に関する項目]

1. 販売名	(1)和名：ドライアーゼ®配合細粒 (2)洋名：Dreias [®] Combination Fine Granules (3)名称の由来：ドライアーゼ、3種配合を示す「drei」、酵素を意味する「-ase」に由来する。
2. 一般名	(1)和名：納豆菌末 (2)洋名：Bacillus natto powder (別名：Bacillus subtilis (natto)) (1)和名：アミロリクィファーゼ X (2)洋名：Amylo-liquifase X (1)和名：サンプローゼ F (2)洋名：Samprose F
3. 構造式又は示性式	
4. 分子式、分子量	
5. 化学名	
6. 慣用名、別名、 略号番号	
7. CAS 登録番号	

Ⅲ. [有効成分に関する項目]

1. 有効成分の 規制区分

2. 物理化学的性質

●納豆菌末

- (1) 外観・性状：納豆菌 (*Bacillus natto*) を含む白色～淡黄色の粉末
- (2) 溶解性：水に一部溶解、エタノールに溶けない
- (3) 吸湿性：なし
- (4) 融点（分解点）：
- (5) 酸塩基解離定数：
- (6) 分配係数：
- (7) その他の主な示性値：

●アミロリクィファーゼ X

- (1) 外観・性状：
基原：細菌 *Bacillus amyloliquefaciens* の産生するデンプン消化酵素（アミラーゼ）を含有する白色の粉末
- (2) 溶解性：水又は、エタノールに溶けない
- (3) 吸湿性：なし
- (4) 融点（分解点）：
- (5) 酸塩基解離定数：
- (6) 分配係数：
- (7) その他の主な示性値：

●サンプローゼF

- (1) 外観・性状：
基原：糸状菌リゾプス・キネンシスの分泌する酸性プロテアーゼを主体にアミラーゼ及びセルラーゼを含有する酵素剤
- (2) 溶解性：水に一部溶解、エタノールに殆ど溶けない
- (3) 吸湿性：なし
- (4) 融点（分解点）：
- (5) 酸塩基解離定数：
- (6) 分配係数：
- (7) その他の主な示性値：

3. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

4. 有効成分の確認試験法

●納豆菌末

【純度試験】の納豆菌数の項の試験方法に準じて得た集落を釣菌し、下記の試験を行う。

(1)形態

グラム陽性の運動性のあるおよそ $2.5 \times 0.6 \mu\text{m}$ の桿菌で、菌体のほぼ中央に卵型の芽胞を形成する

(2)ゼラチン液化力

ゼラチン培地に被検菌を白金線でせん刺し、 37°C 48 時間以上培養したのちに約 30 分間約 4°C に放置する。その後傾けると液化した培地が流出する。

(3)インドール産生能

納豆菌数の項で得た集落を釣菌し、さらに普通寒天培地で培養したものを 1~2 白金耳に取り、ペプトン水に接種し、 37°C 、48 時間培養後、コバック試液を 0.3mL 加えるとき、赤色を呈しない。

(4)硝酸塩の還元能

納豆菌数の項で得た集落を釣菌し、さらに普通寒天培地で培養したものを 1~2 白金耳に取り、硝酸塩の還元能検出用培地*に接種し培養する。培養液に、A 液 1 滴および B 液 1 滴を加えるとき、培地は赤色を呈する。

A 液；スルファニル酸 0.8g を 5N 酢酸水 100mL に溶かす

B 液； α -ナフチルアミン 0.5g を 5N 酢酸水 100mL に溶かす

*硝酸塩の還元能検出用培地

コハク酸ナトリウム 10g

リン酸-水素カリウム 1g

硝酸ナトリウム 1g

硫酸マグネシウム 0.5g

塩化カリウム 0.2g

硫酸第一鉄 微量

水を加えて溶かし、1000mL とする。(pH7.2)

(5)糖類の分解

下記の各糖類を、0.5%に加えたバージコウの培地に菌を接種し、 37°C に 48 時間培養する。グルコース(+)、ラクトース(-)、サッカロース (+)、マルトース(+)

【注】 (+)は分解、(-)は非分解を示す。

●アミロリクィファーゼ X

本品 50mg を量り、 65°C に加温したデンプン糊液 10mL 中に加え、 65°C で 5 分間振り混ぜるとき、内溶液は流動性となる。

5. 有効性成分の
定量法

● サンプローゼ F

(1) たん白消化力

本品 30mg を量り、37℃に加温したゼラチン溶液 10mL に加え、激しく振り混ぜ、37℃で 10 分間作用させるとき、液の粘性は著しく減じる。

(2) でんぷん糖化力

1%パレイシヨデンプン溶液 10mL 及び試料溶液 1mL*を 37±0.5℃で 10分間放置し、フェーリング試液のアルカリ性酒石酸塩液 2mL 及びフェーリング試液のアルカリ性銅液 2mL を加え、水溶液中で 15 分間加熱するとき、明らかな赤色沈澱を生じる。

*試料溶液：本品 1g を精密に量り、水を加えて正確に 500mL とする。時々振り混ぜながら 30 分間以上抽出し、この液 25mL を正確に量り、水を加えて正確に 200mL とする。

(3) せんい素糖化力

本品 10mg を量り、37℃に加温したカルボキシメチルセルロースナトリウム溶液*10mL に加え、激しく振り混ぜ、37℃で 10 分間作用させるとき、液の粘性は著しく減じる。

*カルボキシメチルセルロースナトリウム 1g に水 80mL を加えて加温して溶かし、冷却後、1N 塩酸試液で pH4.5 に調整し、水を加えて 100mL とする。

【純度試験法】

● 納豆菌末

(1) 本品 1g を無菌的に量り、50mL の滅菌蒸留水に浮遊させ、1000rpm 6 分間ホモジナイズする。次いで滅菌蒸留水 5×10^3 、 5×10^4 、 5×10^4 の希釈液を作成し、それぞれの 0.1mL を滅菌ペトリ皿にとり、あらかじめ 50℃に溶解してある普通寒天培地 10mL を加え混和する。凝固後 37℃48 時間培養し、発生した *Bacillus natto* の集落数から、本品 1g 中の菌数を算出する。

(2) 「内容液剤及び X 線造影剤の菌数の限度試験及び試験方法」に準じて試験するとき、黄色ブドウ球菌、大腸菌群、緑膿菌群及び真菌類を認めない。

● アミロクィファーゼ X

「胃腸薬の制酸力及び pH の試験法並びに消化酵素の消化力を測定する試験法について」に準じて、でんぷん糖化力試験を行う。

● サンプローゼ F

「胃腸薬の制酸力及び pH の試験法並びに消化酵素の消化力を測定する試験法について」に準じて、たんぱく消化力試験、でんぷん糖化力試験、せんい素糖化力試験を行う。

IV. [製剤に関する項目]

1. 剤形	(1) 剤形の区分及び性状 白色～類白色の細粒で、味はなく、僅かに特異なおいがある (2) 製剤の物性 1) 重量偏差試験：本品 20 分包をとり、その内容物の重量を精密に量り、平均重量を計算するとき、この値と個々の分包の内容物の重量との偏差の平均重量の 10% を超えるものは 2 分包以下である。 2) 安息角：38.6±2.4deg 3) 分散度：13.8±3.2% 4) ゆるみ見かけ比重：0.58±0.007g/cc (3) 識別コード なし (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の有無 該当しない (5) 酸価、ヨウ素価 該当しない
2. 組成	(1) 有効成分(活性成分)の含量 1g 中、納豆菌末 60mg アミロリクィファーゼ X 120mg サンプローゼ F 30mg (2) 添加物 乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、パレイショデンプン
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	該当資料なし
4. 各種条件下における安定性	アルミ袋包装あるいはヒートシール分包で室温 3 年間保存した結果、変化は認められなかった。
5. 調製法及び溶解後の安定性	該当資料なし
6. 他剤との配合変化	ポポン S、コンドロンで僅かに湿潤した ¹⁰⁾
7. 混入する可能性のある爽雑物	該当資料なし

8. 溶出試験	該当しない
9. 生物学的試験法	該当資料なし
10. 製剤中の有効成分 の確認試験法	<p>(1)納豆菌</p> <p>Ⅲ-4. 有効成分の確認試験に準じて、下記試験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)形態 2)ゼラチン液化力 3)インドール産生能 4)硝酸塩の還元能 5)糖類の分解 <p>(2)でんぷん消化力</p> <p>試料 1g をとり、0.002M 塩化カルシウム 100mL を加え、時々振り混ぜながら 30 分間抽出し、上澄液 1mL をとり、局方バレイショデンプン 1g を水 10mL に懸濁させた液に加え、激しく振り混ぜながら沸騰水中で加熱して糊化し、直ちに 65℃ の水溶中につけ、時々試験管を 45° 角に傾斜するとき、糊化デンプンは水溶化して管口に流出する。</p> <p>(3)たん白消化力</p> <p>試料 2g をとり、0.1M 乳酸塩緩衝液 (pH3.0) 100mL を加え、よく振り混ぜ、40±1℃ で作用させたとき、ゼラチン液の粘度が次第に減ずる。</p>
11. 製剤中の 有効成分の定量法	<p>(1)納豆菌数</p> <p>本品約 1g を無菌的に精密に量り、これを 9.0mL の滅菌蒸留水に浮遊し、じゅうぶん混和して 10 倍希釈液とする。次にその 1.0mL を更に 9.0mL の滅菌蒸留水に加え、10² 倍希釈液とする。以下同様に操作して 10⁵ 倍まで希釈し、その 0.1mL を滅菌ペトリ皿にとりあらかじめ約 50℃ に溶解した普通寒天培地 10mL を加えてよく混和し、凝固後、これらの平板を 37℃ 48 時間培養し、発生した <i>Bacillus natto</i> の集落数から本品 1g 中の菌数を算出する。</p> <p>(2)でんぷん糖化力</p> <p>「胃腸薬の制酸力及び pH の試験法並びに消化酵素の消化力を測定する試験法について」に準じて、でんぷん糖化力試験を行う。</p> <p>(3)たん白消化力</p> <p>「胃腸薬の制酸力及び pH の試験法並びに消化酵素の消化力を測定する試験法について」に準じて、たん白消化試験を行う。</p>

12. 力価	該当しない
13. 容器の材質	内 袋：ポリエチレン 分包袋：セロハン、ポリエチレン ケース：紙ケース、ダンボールケース
14. その他	

V. [治療に関する項目]

1. 効能又は効果	消化異常症状の改善
2. 用法・用量	通常成人 1 回 1g、1 日 3 回、食後経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。
3. 臨床試験	<p>(1) 臨床効果</p> <ol style="list-style-type: none">1) 消化管手術後等の腹部不定愁訴を有する患者を対象に、本品と納豆菌非配合消化酵素剤及び基準力価含有消化酵素剤を二重盲検法により比較した結果、本剤は腹部膨満感、腹鳴、下痢、交替性便秘異常の症状において、納豆菌非配合消化酵素剤より高い改善率を示し、より早い改善効果が認められた。¹¹⁾2) 食欲不振、腹部膨満感、悪心、便秘異常を主訴とする消化器系機能障害を有する患者を対象に本品を投与した、一般臨床試験の結果では有効率は 72% であり、特に食欲不振、腹痛、下痢等の症状に有用性が認められた。¹²⁻²²⁾ <p>(2) 臨床薬理試験：忍容試験 該当資料なし</p> <p>(3) 探索的試験：用量反応探索試験 該当資料なし</p> <p>(4) 検証的試験</p> <ol style="list-style-type: none">1) 無作為化平行用量反応試験 該当資料なし2) 従来の使用されている比較試験 該当資料なし3) 安全性試験 該当資料なし4) 患者・病態別試験 該当資料なし <p>(5) 治療使用</p> <ol style="list-style-type: none">1) 使用成績調査・特定使用成績調査・製造販売後臨床試験 該当資料なし2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要 該当資料なし

VI. [薬効薬理に関する項目]

1. 薬理的に関連のある化合物

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

作用部位：消化管

作用機序：上部消化管において納豆菌が生産する酵素群及び配合された消化酵素が総合的に作用して、消化異常症状を改善する。

(2) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

(3) 効力を裏付ける試験成績

1) 消化吸収率の改善

肝硬変、胃切除後等の消化異常による吸収不良症例に本品を投与した場合、納豆菌非配合消化酵素剤投与時と比較して、PFD試験の尿中PABA排泄率の増加及び糞便脂肪量の減少が認められた。²³⁾

2) 有効成分の作用

- 納豆菌末：納豆菌の産生する酵素群は食物の消化吸収を助長する。
- アミロクイファーゼ X： α -アミラーゼを精製した消化酵素で、酸、アルカリに安定である。
- サンプローゼ F：プロテアーゼ、アミラーゼ、セルラーゼを含有し、本剤に含まれる消化酵素は耐酸性酵素である。

VII. [体内薬物動態に関する項目]

1. 血中濃度の推移	(1) 治療上有効な血中濃度 : 該当しない (2) 最高血中濃度到達時間 : 該当しない (3) 通常用量での血中濃度 : 該当しない (4) 中毒症状を発現する血中濃度 : 該当しない
2. 薬物速度論的 パラメータ	(1) 吸収速度定数 : 該当しない (2) バイオアベイラビリティ : 該当しない (3) 消失速度定数 : 該当しない (4) クリアランス : 該当しない (5) 分布容積 : 該当しない (6) 血漿蛋白結合率 : 該当しない
3. 吸収	該当資料なし
4. 分布	(1) 血液-脳関門通過性 : 該当資料なし (2) 胎児への移行性 : 該当資料なし (3) 乳汁中への移行性 : 該当資料なし (4) 髄液への移行性 : 該当資料なし (5) その他の組織への移行性 : 該当資料なし
5. 代謝	(1) 代謝部位及び代謝経路 : 該当しない (2) 代謝に関与する酵素の分子種 : 該当しない (3) 初回通過効果 : 該当しない (4) 代謝物の活性 : 該当しない (5) 活性代謝物の速度論的パラメータ : 該当しない
6. 排泄	(1) 排泄部位 : 該当資料なし (2) 排泄率 : 該当資料なし (3) 排泄速度 : 該当資料なし
7. 透析等による 除去率	(1) 腹膜透析 : 該当しない (2) 血液透析 : 該当しない (3) 直接血液灌流 : 該当しない

Ⅷ. [安全性(使用上の注意等)に関する項目]

1. 警告内容とその理由

添付文書に記載なし

2. 禁忌内容とその理由

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し、過敏症の既往歴のある患者

3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

添付文書に記載なし

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

添付文書に記載なし

7. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ワルファリン	ワルファリンの抗凝血作用が減弱するおそれがある。	納豆で抗凝血作用が減弱するとの報告がある。

8. 副作用

総症例数 282 例中 3 例(1.06%)3 件の副作用が報告されている。副作用の内訳は腹部膨満感 1 件(0.35%)、悪心 1 件(0.35%)、胸やけ 1 件(0.35%)であった。(再評価結果)

頻度 種類	0.1~5%未満
消化器	腹部膨満感、悪心、胸やけ

9. 高齢者への投与	添付文書に記載なし
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	添付文書に記載なし
11. 小児等への投与	添付文書に記載なし
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	添付文書に記載なし
13. 過量投与	添付文書に記載なし
14. 適用上及び薬剤交付時の注意	添付文書に記載なし
15. その他の注意	
16. その他	

Ⅹ.〔非臨床試験に関する項目〕

1. 一般薬理

2. 毒性

(1) 単回投与毒性試験

1) 急性毒性

LD₅₀ マウス (mg/kg)²⁴⁾

動物	マウス	マウス
性別	雄 雌	雄 雌
経口投与	> 12,000	> 12,000

(2) 反復投与毒性試験

1) 亜急性毒性

該当資料なし

2) 慢性毒性

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. [取扱い上の注意等に関する事項]

1. 有効期間又は 使用期限	3年(容器に表示の使用期限内に使用すること)
2. 貯法・保存条件	湿気を避けて保存、室温保存
3. 薬剤取扱い上の 注意点	
4. 承認条件	なし
5. 包装	500g、1kg(500g×2)、1g×1200包
6. 同一成分・同効薬	(1) 同一有効成分： (2) 同効薬 : コンクチーム N(エムジーファーマ、共和薬品)
7. 国際誕生年月日	該当しない
8. 製造承認年月日、承 認番号(許可)	ドライアーゼ配合顆粒 製造承認年月日：2009年6月26日 承認番号：22100AMX01148000 新ドライアーゼ 製造承認年月日：2003年12月1日 承認番号：15000AMZ00340000
9. 薬価基準収載日	ドライアーゼ配合顆粒 2009年9月25日 新ドライアーゼ 1976年9月1日
10. 効能・効果追加、用 法用量変更追加等 の年月日及びその 内容	該当しない
11. 再評価結果年月日 及びその内容	再評価結果 1991年9月

12. 再審査期間	該当しない
13. 投与期間の制限 (厚労省告示第 99 号)	該当しない
14. 厚生省薬価基準 収載コード	2339151C1039
15. 保険給付上の注意	

X I. [文献]

1. 引用文献

- 1) 山口和夫：茨城大学農学部学術報告、22,43. (1975)
- 2) 大槻耕三、他：京都府立大学学術報告(理科、生活科学)、27,21. (1976)
- 3) 小沢恭輔：目黒研究所報告、7,9. (1964)
- 4) 東矢直：熊本女子大学学術紀要、27,81. (1975)
- 5) 斉藤勉：北海道医学雑誌、16,82. (1938)
- 6) Ozawa, k. et al. : Microbaio. Immunol., 23,1147. (1979)
- 7) 牛嶋彊、他：日本細菌学雑誌、35,625. (1980)
- 8) 藤田昭二、他：畜産の研究、42,751. (1988)
- 9) 中嶋隆、他：滋賀県立短期大学学術雑誌、46,19. (1994)
- 10) 浜沢恵美子、他：基礎と臨床、10,284. (1976)
- 11) 福井興、他：基礎と臨床、20,433. (1986)
- 12) 塩路種昭：基礎と臨床、10,3222. (1976)
- 13) 石橋純子、他：薬理と治療、4,3168. (1976)
- 14) 橋本仁：薬理と治療、4,3332. (1976)
- 15) 波多野誠、他：新薬と臨床、26,1449. (1976)
- 16) 奥山正巳：薬物療法、9,1475. (1976)
- 17) 長谷田祐一：診療と新薬、13,2519. (1976)
- 18) 木村直躬：新薬と臨床、26,1453. (1977)
- 19) 菊池仁：新薬と臨床、26,1457. (1957)
- 20) 小田稔る：薬物療法、10,35. (1977)
- 21) 辻俊三：薬物療法、10,867. (1977)
- 22) 陶山匡一郎、他：診療と新薬、14,1931. (1977)
- 23) 松本恒司、他：基礎と臨床、20,471. (1986)
- 24) 辻野勲、他：薬理と治療、5,59. (1977)

2. 文献請求先

マイラン製薬株式会社 研究開発本部 安全管理部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目11番2号
TEL 03-5733-9863 FAX 03-5733-9859

X II. [参考資料]

X III. [備考]

1. その他の関連資料

2. 学術情報に関する お問い合わせ先

マイラン製薬株式会社 カスタマーサポートセンター
フリーコール 0120-06-6720
(9:00～17:00／土日祝日を除く)

 **Mylan**